

日照不足に関する農作物等の技術対策

福島県農林水産部農業振興課

平成27年8月28日13時40分、「日照不足に関する福島県気象情報 第1号（福島地方気象台）」が発表されました。

日照不足に関する福島県気象情報 第1号

平成27年8月28日13時40分 福島地方気象台発表

（見出し）

福島県では、8月11日頃から、日照時間の少ない状態が続いています。この状態は、今後2週間程度は続く見込みです。農作物の管理等に十分注意してください。

（本文）

福島県では、8月11日頃から、前線や低気圧、北東からの湿った気流の影響で曇りや雨の日が多く、日照時間の少ない状態が続いています。

この先、前線や低気圧の影響を受けやすく、今後2週間程度は日照時間の少ない状態が続く見込みです。

農作物の管理等に十分注意してください。

日照時間（8月11日から8月27日まで）（速報値）

（気象官署及び特別地域気象観測所）

	日照時間（h）	平年比（％）
若松	36.0	33
福島	28.6	35
白河	30.7	39
小名浜	43.1	43

今後、気象台から発表される気象情報等に留意してください。

以下の技術対策を参考に、農作物の管理に十分注意しましょう。

【共通事項】

- （1）日照不足や曇雨天が続くことにより、農作物に病害が発生しやすくなることから、今後の天候の推移に十分に注意するとともに、ほ場の観察を定期的に行い、適期防除に努めましょう。
- （2）農薬を使用する際には、ラベルに記載された使用基準を遵守し、散布にあたっては飛散防止対策を講じてください。

1 水 稲

- （1）出穂後、少なくとも30日間は落水せず間断かん水とし、根の活力を維持することで登熟の向上を図りましょう。
- （2）刈り取りの適期は、籾の黄化率が90％程度になった頃からです。ほ場をよく観察

し、適期刈り取りに努めましょう。

なお、登熟のバラツキが大きくなる可能性がありますので、収穫・乾燥・調製は丁寧に行いましょう。

2 大豆・そば

湿害を防ぎ根の活力を維持するため、降雨によりほ場内に停滞水が発生しないよう明きよ等による排水対策を徹底しましょう。

3 野菜

(1) ほ場の管理

ア 日照が不足すると生育が軟弱徒長気味となり、病害の発生や品質低下が懸念されますので、追肥は1回当たりの窒素分量を少なくし、窒素過多にならないようにしましょう。

イ 降雨が続く場合は、停滞水が発生しないよう明きよを掘るなどして排水対策を徹底しましょう。

ウ ハウスでは換気を良好にし、適正な温湿度管理に努めるとともに、加温機がある施設では、曇雨天時に送風運転を行い、葉の濡れを防ぎましょう。

エ 防虫ネット栽培では、曇雨天・日照不足により軟弱な生育となっているほ場があるため、黄化葉や側枝の新葉を覆っている葉、病葉は随時摘除するとともに、着果負担が大きい果菜類では草勢に応じて摘果しましょう。

(2) 主な品目の技術対策

ア キュウリ

べと病、つる枯病、炭そ病等の発生が多くなるので防除に努めましょう。また、不良果を摘果し、草勢維持を図りましょう。

イ トマト

追肥は、窒素過多にならないように施用し、草勢維持に努めましょう。また、灰色かび病や葉かび病が発生しやすいので、ハウス内の換気を図るとともに、薬剤散布を行いましょう。標高が高い等冷気の入しやすいところでは、疫病の発生に注意しましょう。

ウ インゲン

排水対策を徹底するとともに、炭そ病等の発生に注意しましょう。

エ ピーマン

斑点病等の発生に注意しましょう。

オ ナス

排水対策を徹底し、灰色かび病等の発生に注意しましょう。

4 果樹

(1) 主な品目の技術対策

ア もも

せん孔細菌病防除で最も効果が期待されるのは秋期防除です。9月10日頃までに1回目の防除を実施し、その後は、2週間間隔で2回の防除を実施しましょう。

なお、秋期防除を実施する前に、あらかじめ樹冠内部の徒長枝を中心に秋期せん定を行い、薬液の透過性を高め、散布ムラをなくしましょう。

イ 日本なし

黒星病対策として、幸水の収穫終了直後及び豊水収穫終了直後に秋期防除を行い、越冬菌密度の低減を図りましょう。

5 花き

(1) ほ場の管理

日照が不足すると茎葉の生育が軟弱徒長気味となり、病害の発生や品質低下が懸念されますので、積極的な施肥は避けましょう。

また、曇雨天時は遮光資材は取り除き、光の確保に努めましょう。さらに、不要な枝葉を取り除き、風通しをよくするとともに農薬の予防散布により病害発生抑制に努めましょう。

露地花きでは、過湿等によって下葉の黄化や枯れ上がりが発生しやすいため、排水対策を行いましょう。

(2) 主な品目の技術対策

ア トルコギキョウ

ブラッシングが発生しやすいため、余分な蕾を早めに取り除きましょう。また、施設内の風通しを良くし、灰色かび病の抑制に努めましょう。

イ キク

白さび病等の発生が懸念されるため、予防散布、排水対策を行いましょう。

ウ ユリ

露地では、葉枯病が発生しやすいため、排水対策や予防散布を行いましょう。

エ リンドウ

葉枯病や褐斑病が発生しやすいため、排水対策や予防散布を行いましょう。

また、気温が低く経過すると花腐菌核病の発生が早まるため、適切な防除に努めましよう。

6 飼料作物

(1) 生育停滞、湿害及び刈遅れ等により、収穫量や品質の低下のおそれがあるため、気象及び生育状況に応じた適切な肥培管理、排水対策や収穫調製に努めましよう。

(2) また、牧草等の収穫が遅れる場合には、添加剤の使用等によりサイレージの品質向上に努めましよう。

発行：福島県農林水産部農業振興課 TEL 024(521)7339

○農業振興課ホームページ：以下のURLより他の農業技術情報（生育情報、気象災害対策、果樹情報、特別情報）をご覧ください。

URL：<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021a/>

○ふくしま新発売：以下のURLより最新の農林水産物モニタリング情報、イベント情報等をご覧ください。

URL：<http://www.new-fukushima.jp/>